

平成23年度第1回岡山県環境審議会水質部会 議事概要

1 日時

平成23年11月24日（木）13:30～15:30

2 場所

三光荘 3階 パブリゾン（岡山市中区古京町1-7-36）

3 出席者

委員5名

4 議事要旨

（1）審議事項「第7次岡山県水質総量削減計画（案）について（諮問）」

審議の結果、原案のとおり承認された。

（委員） ノリの色落ち、漁獲量の低下が起こっていると聞いている。窒素不足や栄養塩不足と考えられるが、それに対し今までどおりの下水処理の推進を続けていくことについて再検討する話もあったかと思うが。

（事務局） 国の中央環境審議会瀬戸内海部会で、ノリの色落ちの原因と対策について審議を開始したと聞いている。どの形態の窒素がノリの色に影響を与えているのかが課題である。

（委員） COD 汚濁負荷量について、素案の計画と比べ、生活排水が1.8から1.7に、産業排水が1.3から1.4に変更されているが、この理由は。

（事務局） 算出した値をトン単位に丸める際に誤りが有ったため修正を行ったものである。

（委員） 底泥からの浚渫は、河川だけでなく海の浚渫も行うのか。

（事務局） 海域は港の浚渫を行っている。

（委員） 海の浄化能力を上げる対策の具体例は。

（事務局） 藻場、干潟の造成が主である。岡山県では特にアマモ場の造成に力を入れて聞いている。

（委員） 第6次総量削減計画及びその評価を踏まえての新しい対策について教えて欲しい。

（事務局） 評価について、COD、窒素、リンの三項目だが、第6次総量削減計画の削減目標を大きく上回った。国の方針として、瀬戸内海では、現状の水質を悪化させない事としているため、第6次総量削減計画の事業をそのまま引き継ぐこととしている。窒素、リンについては第6次総量削減計画目標と同じ値を設定し、COD については達成率が悪いいため目標値を下げている。基本的な方策、方途については第6次総量削減計画と同じである。

（委員） 昭和30年代のCODの記録は残っているのか。

（事務局） 昭和40年代のものは有ったと記憶しているが、昭和30年代頃のデー

タは有るか分からない。昔と今では測定方法が異なっており、方法の違いで評価が異なるとも聞いており、単純に数値を比較できない。この数値の整理も併せて国で検討している。公害全盛期の著しい汚れのあった危機的状況は脱している。

(委 員) 児島湾の動物を見ていると、埋立時にいなくなった生物が戻り始めている。そういう意味ではかなり水質はきれいになっていると思われる。水の循環を促す生物が活動を始めており、こういった生物が増える状況を作り出せば、年々少しずつでも確実にきれいになっていくと思われる。

(2) 報告事項「児島湖に係る第6期湖沼水質保全計画(素案)について」

(委 員) 魚の放流事業が記載されているが、どこが行っている事業か。

(事務局) 漁協が行っている。

(委 員) どのような方法で意見募集をしているのか。

(事務局) 県のホームページの他、県庁舎、県民局、図書館、きらめきプラザなどに資料を備え付けて募集をしている。

(3) その他

(事務局) 次回の水質部会は来年1月に開催予定である。